

可茂農林事務所の普及活動状況（1月）

今月の重点活動

■若手農業者支援 **土づくりセミナーを共催**

みのかもファーマーズ倶楽部は、可茂管内の若手農業者の任意団体であり、毎月の定例会の際に、講師を招いて勉強会を行うなど、会員の研鑽に熱心に取り組んでいます。

新年最初となる1月6日の定例会では「土づくりセミナー」を行い、会員の6割以上となる13名が受講しました。開催にあたっては、農林水産省の土づくり専門家派遣事業を活用して実施しました。講師には、DGC 基礎研究所の内山土壤医を招き、土壌の基礎分野を中心に2時間の講義を受けました。全員が熱心に聴講し、講義後の質疑応答も活発に行われた。また、講義後アンケートでも、大変役に立った旨のコメントが目立ちました。

今後も、みのかもファーマーズ倶楽部をはじめ、若手農業者の活動を支援していきます。



【土づくりセミナーの様子】

（地域支援第一係・三輪俊貴）

新たなブランドづくり

■栗 **八百津町にて剪定講習会を開催**

八百津町と農林事務所では、八百津町の栗生産者を対象に全6回の栗栽培講習会を計画して町内の栗振興を進めています。第5回の講習会を1月10日と12日に行い、両日あわせて35名の出席がありました。

今回の講習内容は「剪定」で、普及指導員が定植後間もない幼木から老木までの生育段階ごとに、実際に作業をしながら剪定作業の要点を説明しました。品質の良い栗を生産しようと参加者からは活発に質問がありました。希望者は講習会で実際に剪定作業を行い、講習内容の理解を深めました。

また、講習希望があった高木化した栗樹を超低樹高栽培へ転換していく剪定方法も解説しました。今後も栗栽培講習会を通して栗生産者を支援していきます。



【普及員の説明を聞く参加者】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

売れるブランドづくり

■夏秋トマト **美濃白川夏秋トマト技術部会を開催**

美濃白川夏秋トマト部会では、ワーキンググループとして4部会を設定して、トマト部会内の各課題を検討しています。

1月9日に、産地の技術課題に取り組む技術部会員12名が集まり部会が開催されました。美濃白川地区では、ここ数年青枯病の被害が拡大しており、改めて青枯病対策の練り直しが必要となってきています。農業普及課からは、「がんばる根フォルテ高接苗」の導入、昇温対策としての天井ビニールやマルチの検討など、R2年作に向けて、取り組むべき課題について助言を行い、部会活動を支援しました。

（園芸産地支援係・永田真一）

■花き **花き生産者協議会 研修会・交流会開催を支援**

可茂地域花き生産者協議会では、1月15日、岐阜市の長良園芸安藤代表取締役らを招いて研修会を開催しました。安藤代表は、地域に密着した園芸店として、花きの種類別及び時期について、いかに消費者に売っていくか戦略を持って取り組んでいることを説明されました。

協議会会員からは、どのようなジャンルの花きが売れているか、購買年齢層などについて質問があり、安藤代表及び同席した近隣市場担当者から、季節感のあるものや個性があるものは安定的な需要があるとの回答を受けました。また、購買年齢層は高年齢の方が多く、年々、その傾向が強くなっているため、若い方に興味を持ってもらえるような売り方や商品開発が必要との意見もでました。

オブザーバーとして参加した県農産園芸課花き振興対策監に対し、会員からは県の花き振興政策への要望も数多く出されました。

農林事務所は、今後も地域の花き生産者の活動を支援していきます。

(園芸産地支援係・熊澤良介)

多様な担い手づくり

■4Hクラブ **東海ブロック農村青少年会議にて意見発表**

1月22日、名古屋市内にて東海ブロック農村青少年会議が開催され、各県からの意見発表やプロジェクト発表が行われました。

岐阜県4Hクラブ連絡協議会長を務める美濃加茂市の果樹農業者が、岐阜県代表として意見発表を行いました。「親元就農と家族経営」と題して、就農した経緯や経営状況、親元就農のメリット・デメリット、今後の経営方針等について発表がありました。将来の事業継承に向けて、経営改善したいことや新たにチャレンジしたいことなど、自身の経営に対する思いを伝えることができました。

農林事務所では若手農業者の幅広い知識や技術の習得や4Hクラブ活動について今後も支援していきます。



【意見発表する若手農業者】

(地域支援第二係・黒川純子)

住みよい農村づくり

■有機農業 **環境保全型農業の取り組み**

白川町のゆうきハートネットでは19名の生産者が、環境保全型農業直接支払制度に取り組んでいます。環境保全型農業直接支払制度とは、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を営む生産者に交付金を支給する制度であり、ゆうきハートネットでは制度を活用しつつ有機農業に取り組んでいます。

1月7、8日に白川町役場において、役場等関係機関と共に、事業事務手続き及び使用している資材の確認等を行いました。今年度の取り組み面積は約11haとなり、昨年度と同じ面積での取り組みでした。

有機農業及びゆうきハートネットの取り組みについて、今後とも支援していきます。

(地域支援第二係・黒川純子)